

工学研究科における

「世界を先導する研究力」と「人材育成」



巻頭言

掛下知行*

工学研究科は10専攻と6つの附属センターからなる大きな研究科で、専任教員数も450名を超える大所帯です。工学という名前から一般には応用研究に偏った内容と見られがちですが、基礎研究を展開されている先生方も数多く、基礎から応用に至るまで、他の研究科と同様に世界に誇る研究成果を長年にわたり発信し続けている教育研究機関です。この機関では、「世界を先導する研究力」という大きな柱に加えて、「人材育成」がもう一つの極めて重要な柱となっていることは言うまでもありません。「人材育成」につながる教育活動においてこの数年間は、後期入学試験の在り方について検討を行いました。その結果、工学部では、本年平成24年4月に新入生を受け入れるための入学試験から、後期入学試験を停止し前期入学試験のみを実施することにいたしました。また、この前期入学試験では、センター試験の成績と専門科目の成績を加味した従来の評価による選抜に加えて、理科と数学を得意とする学生を別途設けた得点基準によって選抜することも始めました。これらの取り組みは、志望大学を決める第一段階である前期入学試験時に、大阪大学工学部に是非とも入学したいという将来の有望な人材の確保をはかるものであります。

教育における国際交流においては、現在500名を超える留学生が滞在しており、この数は大阪大学全

体の滞在留学生数約1700名の約3割にも達しています。また、工学研究科・留学生相談部では工学英語を学ぶために特別に企画した夏季研修を運営し、毎年8月から9月にかけて学部学生をオーストラリアのモナシュ大学へ、大学院生を米国西海岸の大学へ派遣する活動を行っています。前者は今年で4年目、後者は10年目を迎えます。ご存知のように教育活動の成果は、時間がかかり、現在滞在している留学生と日本人学生との交流もその成果が実際に花開くのはこの先20年後、30年後かもしれません。大学における研究・教育・社会貢献・管理運営等の諸活動の自己評価・外部評価が中期目標の達成に向けて毎年行われておりますが、教育に関しましてはその本質的な取り組みを短期間で適切に評価することは困難であります。したがって、長期間に渡って常に評価内容をフィードバックできるような評価体制の確立が極めて重要な課題であると思います。

昨年3月に起きた大震災からの日本の復興には、工学分野からの支援は不可欠であり、私どもの工学研究科に課せられた使命は極めて重大です。また長期間にわたる復興対応は避けられそうにありません。そのためにも、将来にわたってグローバル社会の発展に恒常的に寄与できる「人材育成」と「世界に誇る研究力の展開」を核に置いて、我が国の将来を牽引できる人材輩出に力を注ぐことがとても大切であると感じております。

最後になりましたが、以上に述べた生き活きとした取り組みが国内外から高く評価され、それがまたより一層の魅力となり、将来を担う若い人々を吸引する工学部・工学研究科となるよう励みたいと思っております。



*Tomoyuki KAKESHITA

1952年4月生
北海道大学 大学院理学研究科 物理学
専攻 修士課程修了(1978年)
大阪大学 大学院基礎工学研究科 物理
系専攻 博士後期課程退学(1979年)
現在、大阪大学 大学院工学研究科長
工学部長 教授 理学博士
TEL: 06-6879-7201
FAX: 06-6879-7485
E-mail: kakesita@mat.eng.osaka-u.ac.jp